

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2021

課題番号：16K16701

研究課題名(和文)中国新出土文献から見る「故事」の変遷と展開

研究課題名(英文)Development and Evolvement of Anecdotal Writings in the Newly Discovered Early Chinese Manuscripts

研究代表者

草野 友子(KUSANO, Tomoko)

立命館大学・衣笠総合研究機構・特別研究員

研究者番号：90733402

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文):本研究は、1990年代以降に発見された新出土文献(竹簡資料)を用いて中国における「故事」の変遷と展開を考察し、中国古代思想史の再構築を試みるものである。主な研究対象は、上海博物館・清華大学が所蔵する戦国時代の竹簡と、北京大学が所蔵する秦代・漢代の竹簡である。まずは竹簡排列や文字認定等の問題を解決してテキストを確定し、伝世文献との比較を通して、思想的特質や著作意図、文献的性格等を明らかにした。その成果として、これまでの研究を集大成した単著『中国新出土文献の思想史的研究―故事・教訓書を中心として―』を刊行した。また、科研シンポジウム「若手研究者竹簡學国際會議」を主催し、研究の活性化を図った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究のように新出土文献を用いて戦国時代から漢代にかけての故事・教訓書の変遷過程を解明するものは、国内外においてほとんど見られない。それが研究書という形に結実したことにより、中国古代にかつてどのような文献が存在していたかという新情報を公開することができた。そのうち特徴的なものを一つ挙げると、たとえば前漢劉向『列女伝』や後漢班昭『女誡』よりも早くに成立した女訓書である北京大学蔵秦簡『教女』を日本で初めて検討し、本篇に描かれている女子は儒教的女性観とは異なることなどを指摘した。これは女性史研究にも一石を投じるものである。また、一般書・概説書等でも本研究の成果を盛り込み、最新情報の提供を心がけた。

研究成果の概要(英文):This study focuses on the development and evolvement of Chinese "Anecdotal Writings," and it aims to reconstruct early Chinese intellectual history by delving into the newly discovered bamboo slip manuscripts since the 1990s.The major materials include the pre-imperial and early imperial bamboo manuscripts in the collection of Shanghai Museum, Tsinghua University and Peking University.First,I will try to recover the original sequence of the slips, resolve a series of paleographic issues, and reconstruct the texts.In addition,by reading together with the transmitted counterparts or other related texts, I will also demonstrate the manuscripts, philosophical positions and the characteristics of the texts.Consequently, I published a monograph entitled "Historical Study of Thought in Chinese Excavated Manuscripts:with Focus on Epics and Didactic Books." Moreover, I also organized an international symposium called "Workshop on the Bamboo Manuscripts:A Conversation between Emerging Scholars."

研究分野：中国古代思想史

キーワード：新出土文献 故事 教訓書 中国古代思想史 戦国竹簡 秦簡 漢簡 中国

1. 研究開始当初の背景

20世紀後半以降、中国各地で中国古代思想史の空白を埋める竹簡資料が相次いで発見されている。特に劇的な事態をもたらしたのは、1993～1994年に発見された郭店楚墓竹簡(郭店楚簡)・上海博物館蔵戦国楚竹書(上博楚簡) 2008年に発見された清華大学蔵戦国竹簡(清華簡)などのいわゆる「新出土文献」である。これらは戦国時代中期に書写された竹簡であり、経書・史書などの伝世文献と密接な関わる文献や、諸子百家の知られざる思想が窺える文献、春秋戦国時代の各国の故事など多様な内容が含まれている。また、2009年～2010年に発見された北京大学蔵西漢竹書(北大漢簡)および秦簡牘(北大秦簡)には歴史・思想・文字学・文学など多方面の研究に影響を与える文献が含まれており、新出土文献研究の可能性をさらに拡大した。

研究代表者である草野はこれまで、伝世文献に新出土文献を加えた総合的考察という手法を用いて研究を進めてきた。その主な対象は2001年に公開が始まった上博楚簡である。まずはそのうち、春秋時代に魯で起こった早魃に関する文献『魯邦大旱』、春秋時代に斉で起こった日食をめぐる文献『競建内之』『鮑叔牙与隰朋之諫』、春秋時代の晋が舞台であり、伝世文献とは異なる人物像が描かれる『姑成家父』を研究対象とした。続いて、上博楚簡の楚国故事を研究の中心に据え、特に『成王為城濮之行』『申公臣靈王』『邦人不称』『命』『陳公治兵』『東大王泊旱』について釈読の提示や内容の分析などを行ってきた。『成王為城濮之行』は『左伝』の内容との重複が見られる文献であり、本篇は城濮の戦いの後、楚の敗北の原因と背景を明らかにするために書かれたものであるとの見解を提示した。『申公臣靈王』は楚の靈王と穿封戌に関する故事であり、『左伝』の関連記事と対照することで本篇の全体構造を明らかにした。『邦人不称』は春秋時代の楚の賢臣、葉公子高の故事であり、竹簡の排列・綴合・帰属を検討した上で、「不称」の語を手がかりに全体構成と特質を明らかにした。『命』は春秋時代の楚の恵王の時代の臣下、令尹子春と葉公子高の子とによる対話形式の文献であり、どのような意図のもとで著作されたものなのかについて検討した。『陳公治兵』は楚王が陳公に軍隊を整えるよう要請したという内容であり、竹簡排列を再検討して復原を試みた結果、本篇は楚の先君の戦歴、楚王と陳公との対話、具体的な兵法の三つに分類できることを明らかにした。『東大王泊旱』は楚の東大王(簡王)の時代に起こった早魃に関する文献であり、本篇に見える天人相関思想について考察した。また、中国古代における「王」「君王」の呼称の問題や、上博楚簡の中に存在する誤写の可能性のある文字についての検討も行った。

以上の研究成果から、一旦、以下のように結論づけた。楚国故事は、楚王の側に何らかの過失・失敗があり、王の規範や禁忌などが示されるというものが多し一方、臣下同士の対話を中心に構成され、王を補佐すべき立場としての規範が示されているものもある。これらは楚の太子や王族貴族の子弟を対象として教戒をまとめた故事集であり、教訓書としての役割をもった文献であると推測される。これまで教訓書といえば、前漢の劉向が編纂した『新序』『説苑』『列女伝』がその代表的書物であったが、戦国時代にはすでに教訓書として意識的に編纂された故事集が存在していたと考えられるのである。

一方で、清華簡の文献も研究対象とし、『逸周書』祭公篇に関わる文献『祭公之顧命』の釈読の提示や、周の呂丁に関する文献『封許之命』の概要執筆を行った。

さらに、新出土文献専門の研究機関「武漢大学簡帛研究中心」での一年間の在外研究(2011～2012年)が契機となり、多くの海外研究者と交流し、「出土文献青年学者論壇」「中国簡帛学国際論壇」などの国際学会での口頭発表、『簡帛』『簡帛文献與古代史』『珞珈史苑』といった国外の学術誌での論文掲載など、国際的な水準で研究活動を行ってきた。また、2008年からは毎年、上海博物館・清華大学・北京大学等の竹簡の所蔵先に赴いて実見調査を行った。

このように研究を推進してきた結果、「故事」というものを今一度見直すべきではないかと考えるようになった。その契機となったのは北京大学が入手した秦簡・漢簡であり、その中には故事や教訓書の多様性を示す文献が多く含まれていた。また、2015年9月には北京大学・清華大学に赴いて竹簡の実見調査と現地研究者との学術交流を行い、整理者と直接議論できる貴重な機会を得た。このことも着想に大きく影響している。

以上の経緯により、戦国竹簡・秦簡・漢簡に見える「故事」類文献を総合的に検討し、伝世文献との比較を通して、その変遷と展開を明らかにする必要があるとの考えに至ったのである。

2. 研究の目的

本研究は、新出土文献を用いて中国における「故事」の変遷と展開を考察し、中国古代思想史を再構築することを目的とする。主な研究対象は、上海博物館・清華大学が所蔵する戦国竹簡(上博楚簡・清華簡) および北京大学が所蔵する秦簡(北大秦簡)・漢簡(北大漢簡)の「故事」類文献であり、以下の三つの観点から研究を進めるものである。

- (1) 各篇の竹簡排列や文字認定の問題を解決し、テキストを確定する。
- (2) 各篇の内容を検討し、その思想的特質や著作意図などを明らかにする。

(3) 伝世文献と比較して、共通点や相違点を明らかにし、その文献的性格を探る。

新出土文献の先行研究は、古文字学的検討のみにとどまるものや、個々の文献のみを考察したものが多く、本研究は「故事」類文献の総合的な研究を試みるものであり、このような研究は国内外においてほとんど見られない。また、新出土文献と伝世文献との比較や、新出土文献の相互の比較対照作業はまだ十分には行われておらず、これを行うことにより、戦国時代から漢代にかけての「故事」の変遷過程が明らかになると考えられる。このような分析が、ひいては中国古代思想史の再構築につながる。

3. 研究の方法

本研究の対象文献は、上博楚簡や清華簡に含まれている「故事」類文献、北大漢簡・秦簡の故事・教訓書に関わる文献である。これらについて、以下のような手順で研究を進めた。

(1) テキストの確定：新出土文献を研究するにあたって基礎的かつ重要な作業は、テキストの確定である。特に戦国竹簡は難読箇所が多数存在し、その解読には古文字学的検討が必須となる。また、整理者の竹簡排列や綴合に問題があるものもあり、排列を確定する必要がある。そこでまず、各文献の竹簡排列や文字認定の問題を解決し、テキストを確定して、訳注を作成する。

(2) 思想史的研究：テキストが確定できれば、内容の検討に入る。「故事」はそのほとんどが国家の運営や王権の存続などの政治思想に関わる内容である。それらはどのような意図のもと、どのような背景で著作されたものなのか、その思想的特質はどのようなものかについて考察する。

(3) 文献学的研究：内容の検討を終えた後、伝世文献との比較を行う。具体的には、経書、史書、諸子百家の書、歴史故事集等の関連文献と比較し、登場人物、歴史的背景、事件の経過と結果などを対照させながら考察する。そして、伝世文献との共通点と相違点を明らかにし、その要因を総合的に検討することにより、「故事」の変遷過程を解明する。

研究成果は国内外の学会や学術誌等で随時発表し、研究期間内にこれまでの研究成果を研究書として刊行すべく準備を進める。また、竹簡の実見調査や現地研究者との学術交流を積極的に行い、研究の精度を高める。さらに、若手研究者による国際シンポジウムを主催し、新出土文献研究の活性化を図る。

4. 研究成果

(1) 各文献の研究成果

北大漢簡『周訓』：本篇は戦国時代の周の昭文公の共太子に対する教訓書であり、伝世文献には見られない内容である。整理者はこの文献について、現存最古の図書目録である『漢書』芸文志の「道家類」に見える「『周訓』十四章」であり、黄老学派の文献であると見なしているが、先行研究において異なる見解も提示されている。そこで本篇の思想的傾向を明らかにするために、『周訓』に引用されている伝世文献、特に『詩』の解釈を中心に取り上げて検討した。その結果、本篇の形式は戦国時代後期から漢代の儒家が『詩経』を引用して説く際にしばしば見られるものであり、道家よりも儒家の思想に近い文献であることを明らかにした。

清華簡『封許之命』：本篇は周初の許国封建に関する文献であり、伝世文献には見られない内容である。そこで、本篇全体の釈読を提示した上で、その内容を明らかにした。本篇の記述形式は西周・春秋時代の青銅器の銘文に見られる冊命と同様であり、周王から呂丁に授けられた車馬や器物などが詳細に記されている。また、本篇においては車馬や宝玉・装飾品などの器物には「易（賜）」字、青銅器には「贈」字が使用され、明確な使い分けがなされている可能性を指摘した。

北大秦簡『教女』：中国古代の女性に関する書物の代表作としては、前漢劉向『列女伝』や後漢班昭（曹大家）『女誡』等が挙げられるが、それ以前の資料はこれまで見る事ができなかった。ところが近年、北京大学が入手した秦簡の中に、女性向けの教訓書が含まれていた。『教女』と仮に名付けられたその書物には、善良な女子が夫の家で遵守すべき規則や、善良ではない女子の劣悪な行為、善良な女子が避けるべきことなどについて具体的に記されており、漢代以前の女訓書がいかなるものかについて窺い知ることができる重要な資料である。『教女』の竹簡の写真版はまだ全て公開されていないが、すでに整理者による釈文と先行研究が発表されており、その全容はおおむね明らかになっている。そこで、本篇全体の釈読を提示し、同じ教説型の女訓書である班昭『女誡』等と比較しながら、『教女』に見える中国古代の女性観について考察した。その結果、『教女』は秦の官吏の家庭内における女性の地位やあり方が窺える文献であり、当時の道徳観念や社会生活の一端を知ることができるものであること、官吏の妻としてどうあるべきかが強調され、その内容は実に具体的であること、そしてそれはある特定の思想や学派の影響が強く見えるものではなく、儒教的女性観とも異なることなどを明らかにした。

(2) 刊行物

研究書

最終年度である2021年度に、これまでの研究の集大成である単著『中国新出土文献の思想史的研究 故事・教訓書を中心として』（汲古書院、2022年1月26日）を刊行することが

できた。本書は、1990年代以降に発見された中国新出土文献のうち「故事」「教訓書」類の古佚書を取り上げ、その成立と展開、思想的意義を解明することを目的として執筆したものである。序論（全三章）、第一部「楚国故事の研究」（全六章）、第二部「故事類文献の研究」（全三章）、第三部「新出土文献から見る教訓書」（全二章）、「結語」から成り、冒頭に専門用語一覧・凡例、末尾に初出一覧・中文目次・中文摘要・索引を附した。新出土文献研究においては、釈読を行うこと自体が重要な研究の一つであり、基礎作業として欠かすことはできない。そこで、本書では、まず各篇の釈読を提示し、その上で文献の内容を検討するという構成になっている（一部例外を除く）。学術雑誌等で既発表の論文については、本書収録にあたり、すべて加筆・修訂を行った。

序論では、新出土文献の発見が従来中国思想史研究にどのような影響を与えたかについて概説し、現在までの研究状況とその問題点、研究目的・研究方法等を提示した。そして、釈読の際の手がかりとなる二つの問題について、その成果を提示した。一つは誤写に関するものであり、「義」と「敬」、「志」と「忘」、「而」と「天」の三例について検討し、これらは楚系文字上で極めて似た字形であり、誤写されやすい文字であることを指摘した。もう一つは、中国古代における「王」「君王」という呼称の問題についてであり、上博楚簡の楚国故事と『左伝』『国語』等の伝世文献とを検討した結果、南方の長江流域では早くから王号を僭称していたため、「王」と「君王」の呼称が意識的に使い分けられていたことを明らかにした。第一部では、上博楚簡の楚国故事六篇（『成王為城濮之行』『申公巫靈王』『邦人不称』『命』『陳公治兵』『東大王泊旱』）を取り上げた。その結果、楚国故事は楚の太子や王族貴族の子弟を対象とした教戒の故事集と考えられること、戦国時代にはすでに教訓書として意識的に編纂されていたこと、楚の思想的水準が高かったことなどを明らかにした。第二部では魯・斉・晋を舞台とする上博楚簡の故事『魯邦大旱』『競建内之』『鮑叔牙与隰朋之諫』『姑成家父』を取り上げ、その思想的特質や文献的性格を明らかにした。そして、伝世文献はあくまで一側面を映し出したものである可能性が高まったことを指摘した。第三部では、北京大学所蔵の漢簡『周訓』と秦簡『教女』を取り上げ、前者は儒家の傾向が強い文献であること、後者は儒教的女性観とは異なる女訓書であることなどを指摘した。

共著『清華簡研究』（汲古書院、2017年）においては、以前に取り組んだ清華簡『祭公之顧命』の研究成果の修訂版『「祭公之顧命」考』を発表した。また、中村未来氏（福岡大学）とともに「清華簡（壹）～（陸）所収文献解題」を執筆し、清華簡の第一分冊から第六分冊までの書誌情報や文献概要といった清華簡の基礎情報を提供した。

翻訳書

武漢大学簡帛研究中心の陳偉教授による戦国楚簡の概説書『楚簡冊概論』を、湯浅邦弘教授（大阪大学）監訳のもと草野と曹方向氏（現、海南師範大学）が抄訳し、『竹簡学入門 楚簡冊を中心として』と題して刊行した。本書は、「楚簡の基礎知識」「発見と研究」「整理と解読」「出土文献の研究」の四章構成（草野は第一章～第三章を担当）で、「竹簡」の基礎知識や、どのように発掘・整理され、解読が進んできたのかを実例を挙げながら解説しており、初学者のみならず研究者にも有益な情報を提供している。

一般書・概説書

単著『ビギナーズ・クラシックス中国の古典 墨子』（角川ソフィア文庫、2018年）を刊行した。本書は『墨子』の抄訳書であり、一般の読者に理解できるように配慮し、『墨子』の篇順に訳するのではなく、八つのテーマに分けて再構成した。さらに、『墨子』に関わる新資料の項目を設け、新出土文献の発見が中国古代思想史研究に与えた影響や、上博楚簡『鬼神之明』などの『墨子』に関わる新出の竹簡資料について解説を加えた。

また、ミネルヴァ書房の概説書『教養としての中国古典』『中国思想基本用語集』『よくわかる中国思想』に、共著者として名を連ねた。『教養としての中国古典』は、代表的な中国の古典を最新の研究成果も踏まえて解説した書であり、『戦国策』と『十八史略』の章を担当した。『中国思想基本用語集』は、中国思想の基本的な用語を解説する事典であり、その中の資料編を担当し、「易解説」の部分では上博楚簡『周易』の情報を盛り込んだ。やわらかアカデミズム・わかるシリーズ『よくわかる中国思想』においては、第2部「中国思想の本質」「学びの諸相」を担当し、『説苑』『列女伝』『顔氏家訓』『蒙求』『小学』『白鹿洞書院揭示』を解説した。

（3）研究の整理・紹介

「日本學界中國出土簡帛研究概述」：武漢大学簡帛研究中心からの依頼を受け、中村未来氏（福岡大学）、海老根量介氏（学習院大学）とともに2015年から2020年までに日本で発表された新出土文献の研究成果の概要をまとめ、機関誌『簡帛』に三度発表した。戦国時代から三国呉の「簡帛」を対象とし、戦国秦漢全般にわたる研究を草野が、楚簡・秦簡の研究を中村氏が、帛書・漢簡・呉簡・晋簡の研究を海老根氏が担当した。本事業によって、国外の研究者に日本の研究情報を提供することができ、学界に多少なりとも貢献できたのではないと思われる。

「古文字学研究文献提要」：『漢字学研究』第4号において、2014年に日本で刊行された研究書のうち郭店楚簡に関するものを解説した。

日本における中国古代觀念史研究概説：2016年7月9日に「中国古代觀念史研究ワークショップ」を主催した。その際に、日本の中国古代思想史研究において觀念史アプローチで貢献した三氏（竹内照夫・加藤常賢・森三樹三郎）の業績内容を俯瞰し、その特色を論じた。その後、栗田直躬氏を加えて改訂し、中国語に翻訳したものが『東亞觀念史集刊』第11期に掲載された。

安徽大学蔵戦国竹簡の紹介：『文物』2017年第9期掲載の黃德寬「安徽大学蔵戦国竹簡概述」

の日本語翻訳事業に携わり、『中国研究集刊』第 64 号に掲載された。2015 年に安徽大学が入手した戦国竹簡（安大簡）の中には、『詩経』、楚史、孔子語録などの新出土文献研究に大きな影響を与える資料が含まれている。この翻訳によって、日本の学界に安大簡の概要を紹介することができた。

書評：新出土文献の研究論文集である谷中信一編『中国出土資料の多角的研究』（汲古書院、2018 年）の書評を執筆し、『日本秦漢史研究』第 20 号に掲載された。本書には、北大秦簡『教女』の整理者である朱鳳瀚氏による釈文の再検討など、本研究とも関連が深い研究成果が収録されているため、非常に参考になった。

（4）国際的研究活動

2016 年 9 月に上海博物館、2017 年 2 月に安徽大学を訪問し、上博楚簡および安大簡の実見調査と現地研究者との会談を行うことができた。その報告として、草野が所属する中国出土文献研究会主催の特別講演会「竹簡学の現状と展望」において、「安徽大学蔵戦国竹簡について」と題して発表した。

また、「東アジア文化交渉学会第 9 回年次大会」（於北京外国語大学、2017 年 5 月）、「中国簡帛研究論壇 2017・新出土戦国秦漢簡牘研究」（於武漢大学、2017 年 10 月）、「世界漢字学会第 7 届年会」（於立命館大学、2019 年 9 月）などの国際学会に参加し、北大漢簡『周馴』と清華簡『封許之命』の研究成果を中国語で発表することができた。

（5）シンポジウムの主催

2021 年 12 月 18 日に、科研シンポジウム「若手研究者竹簡學國際會議」を主催した。オンライン主体（Zoom を使用、立命館大学から同時中継）で、国内外からの申し込みは 70 名を超え、発表者・スタッフをあわせると参加者は全体で約 80 名に及んだ。石井真美子教授（立命館大学）による「開会の辞」の後、新進気鋭の若手研究者 5 名（肖芸暎・梁静・蒋文・譚競男・田天）が戦国竹簡・秦簡・漢簡に関する研究発表を行った。肖芸暎氏（プリンストン大学）は、典籍類の竹書を製作する過程で、書き手個人のレベルと作業方法の違いによって様々な差異が生じることを指摘された（「書手與底本：再論清華簡書手書寫的能動性」）。梁静氏（武漢大学）は、上博楚簡『天子建州』の甲本・乙本の二種のテキストの関係について見解を示された（「再談《天子建州》甲乙本的抄寫關係」）。蒋文氏（復旦大学）は、今本『詩経』秦風・權輿に見える句「於我乎」の解釈について、安大簡『詩経』を用いて新たな解釈を提示された（「據安大簡談《詩経・秦風・權輿》“於我乎”」）。譚競男氏（江漢大学）は、秦簡・漢簡の算術書に見える四則演算を取り上げ、それらは「加減乗除」の基本的な機能を備えているものの、用語や用法が伝世文献とは異なることを指摘された（「秦漢算術書中の四則運算」）。田天氏（北京大学）は、現在初歩的な整理がなされ、注目を集めている新資料、海昏侯漢墓簡牘の中の「儀」類のテキストについて、その特徴を解説された（「初識西漢海昏侯墓出土的“儀”類文本」）。いずれも新出土文献の最新の研究成果であり、質疑応答および総合討論では活発な議論が行われた。また、発表者全員が女性研究者であったことから、女性研究者の現状についての意見交換も行った。以上の成果報告として、『科研シンポジウム「若手研究者竹簡學國際會議」論文集』を発行した（2022 年 3 月 1 日）。

本研究は、簡牘の実見調査や現地研究者との学術交流が非常に重要な意味を持つ。新型コロナウイルスの流行以前は、海外での学術調査や国際学会参加を積極的に行うことができたが、2020 年以降は海外渡航制限により実質不可能となった。そのような状況の中で、オンラインでのシンポジウムを開催し、国内外の研究者と交流できたことは大きな収穫であった。これからもこうした学術交流を継続したい。

（6）附記

本科研費は、二つの理由で、二年延長している。一つは、出産による研究中断である。2018 年度に産前産後休暇を取得し、研究を一時中断、補助事業期間を 2021 年 3 月まで延長した。もう一つは、新型コロナウイルスの影響である。2020 年以降、新型コロナウイルスの世界的な流行により、集会が非常に難しくなった。当初の予定では、国内外の若手研究者を招聘して国際学会を開催するつもりであったが、海外研究者の招聘が事実上不可能となり、国内移動すら制限される状況になったことから、オンライン主体のシンポジウムとして改めて計画し直した。2020 年度の段階では、オンラインが主体になりつつあったものの、状況が予測不能で準備が困難であると判断し、補助事業期間をもう一年延長して、2022 年 3 月までとなった。結果的に、4 年の研究計画を 6 年がかりで行うこととなったが、上記がいずれも承認されたことにより、研究書の刊行やシンポジウムの開催を含むほぼすべての研究計画を実施することができた。ただ、研究期間内に「故事」類文献全篇を検討できたわけではなく、また今後も新たな資料の発見や公開が進むと予想されるため、引き続き、新出土文献の故事・教訓書を中心に研究を推進していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 草野友子 | 4. 巻 24 |
| 2. 論文標題 「2018-2020年日本學界中國出土簡帛研究概述（上）」 | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 『簡帛』 | 6. 最初と最後の頁 - |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 草野友子 | 4. 巻 70 |
| 2. 論文標題 「北京大學藏秦簡牘『教女』譯注」 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 『學林』 | 6. 最初と最後の頁 66-94 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|--------------------|
| 1. 著者名 草野友子 | 4. 巻 53 |
| 2. 論文標題 「清華簡『封許之命』の基礎的検討」 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 『待兼山論叢（哲学篇）』 | 6. 最初と最後の頁 1-15 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 草野友子 | 4. 巻 20 |
| 2. 論文標題 （書評）谷中信一編『中国出土資料の多角的研究』 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 『日本秦漢史研究』 | 6. 最初と最後の頁 154-170 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 草野友子 | 4. 巻 18 |
| 2. 論文標題 「北大漢簡《周馴》所引《詩》的思想史研究」 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 『簡帛』 | 6. 最初と最後の頁 189-198 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 草野友子・中村未来・海老根量介 | 4. 巻 17 |
| 2. 論文標題 「2016-2017日本學界中國出土簡帛研究概述」 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『簡帛』 | 6. 最初と最後の頁 307-323 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 草野友子 | 4. 巻 6 |
| 2. 論文標題 「北大漢簡『周馴』の思想史的研究 『詩』の引用を中心に」 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『漢字学研究』 | 6. 最初と最後の頁 33-46 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|---------------------|
| 1. 著者名 黄徳寛著、草野友子監訳、鳥羽加寿也・原每輝・六車楓訳 | 4. 巻 64 |
| 2. 論文標題 「安徽大学蔵戦国竹簡概述」 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『中国研究集刊』 | 6. 最初と最後の頁 24-37 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 草野友子 | 4. 巻 446 |
| 2. 論文標題 「中国簡帛学国際論壇二〇一七・新出土戦国秦漢簡牘研究」参加報告」 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『東方』 | 6. 最初と最後の頁 8-12 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 草野友子・中村未来・海老根量介 | 4. 巻 14 |
| 2. 論文標題 「2015年日本學界中國出土簡帛研究概述」 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 『簡帛』 | 6. 最初と最後の頁 241-256 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 草野友子 | 4. 巻 11 |
| 2. 論文標題 「日本的中國古代思想觀念史研究及特點 以心、神、仁、禮、性命等觀念為例」 | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 『東亞觀念史集刊』(台湾・政治大学) | 6. 最初と最後の頁 385-424 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1. 著者名 佐藤信弥・三輪健介・草野友子・高橋(前原)あやの | 4. 巻 4 |
| 2. 論文標題 「古文字學研究文獻提要」 | 5. 発行年 2016年 |
| 3. 雑誌名 『漢字学研究』 | 6. 最初と最後の頁 193-205 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 5件）

| |
|-----------------------------------|
| 1. 発表者名 草野友子 |
| 2. 発表標題 「北大秦簡『教女』からみる中国古代の女性観」 |
| 3. 学会等名 中国出土文献研究会・第73回研究会 |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 草野友子 |
| 2. 発表標題 「北大秦簡『教女』について」 |
| 3. 学会等名 中國藝文研究會及び『學林』第69号合評會 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|------------------------------|
| 1. 発表者名 草野友子 |
| 2. 発表標題 「清華簡《封許之命》研究」 |
| 3. 学会等名 世界漢字学会第七屆年會（國際学会） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 草野友子 |
| 2. 発表標題 「北大漢簡『周馴』の思想史的研究 『詩』の引用を中心に」 |
| 3. 学会等名 第60回漢字学研究会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 草野友子 |
| 2. 発表標題 「北大漢簡《周馴》引的《詩》、《書》考」 |
| 3. 学会等名 「一带一路」文学、文化与中原國際研討会（國際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 草野友子 |
| 2. 発表標題 「安徽大学蔵戦国竹簡について」 |
| 3. 学会等名 特別講演会「竹簡学の現状と展望」（中国出土文献研究会・大阪大学中国学会主催、漢字学研究会・中国古算書研究会共催） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 草野友子 |
| 2. 発表標題 「北大漢簡《周馴》所引《詩》的思想史研究」 |
| 3. 学会等名 中国簡帛学國際論壇2017・新出土戦国秦漢簡牘研究（國際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名 草野友子 |
| 2. 発表標題 「北大漢簡『周馴』引『詩』考」 |
| 3. 学会等名 東アジア文化交渉学会第9回年次大会（國際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--------------------------------|
| 1. 発表者名 草野友子 |
| 2. 発表標題 「新出資料情報（2013～2015）」 |
| 3. 学会等名 中国出土文献研究会・第63回研究会 |
| 4. 発表年 2016年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 草野友子 |
| 2. 発表標題 「日本における中国古代思想觀念史研究の展開と特色」 |
| 3. 学会等名 中国古代觀念史研究ワークショップ（国際学会） |
| 4. 発表年 2016年 |

〔図書〕 計7件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 草野友子 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 汲古書院 | 5. 総ページ数 514 |
| 3. 書名 『中国新出土文献の思想史的研究 故事・教訓書を中心として』 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 湯浅邦弘編著、有馬卓也・椋島雅弘・菊池孝太郎・草野友子・黒田秀教・佐藤一好・佐藤由隆・佐野大介・土屋昌明・寺門日出男・陶徳民・鳥羽加寿也・中村未来・野口眞戒・藤井倫明・藤本眞名美・六車楓共著 | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 ミネルヴァ書房 | 5. 総ページ数 212 |
| 3. 書名 『よくわかる中国思想』 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 湯浅邦弘編著、佐野大介・佐藤由隆・鳥羽加寿也・菊池孝太郎・六車楓・渡辺葉月・藤居岳人・南昌宏・野口真戒・久米裕子・鶴成久章・早坂俊廣・川尻文彦・林文孝・水上雅晴・池田光子・椛島雅弘・草野友子共著 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 ミネルヴァ書房 | 5. 総ページ数 384 |
| 3. 書名 『中国思想基本用語集』 | |

| | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 草野友子 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 KADOKAWA (角川ソフィア文庫) | 5. 総ページ数 192 |
| 3. 書名 『ビギナーズ・クラシックス中国の古典 墨子』 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 湯浅邦弘編著、矢羽野隆男・中村未来・湯城吉信・佐野大介・藤居岳人・椛島雅弘・池田光子・清水洋子・草野友子・久米裕子・佐藤由隆・滝野邦雄・杉山一也・白雨田共著 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 ミネルヴァ書房 | 5. 総ページ数 364 |
| 3. 書名 『教養としての中国古典』 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 湯浅邦弘編著、福田哲之・竹田健二・草野友子・中村未来・曹方向共著 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 汲古書院 | 5. 総ページ数 416 |
| 3. 書名 『清華簡研究』 | |

| | |
|--------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 陳偉著、湯浅邦弘監訳、草野友子・曹方向訳 | 4. 発行年 2016年 |
| 2. 出版社 東方書店 | 5. 総ページ数 240 |
| 3. 書名 『竹簡学入門 楚簡冊を中心として』 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|--|
| <p>中国出土文献研究会 http://www.shutudo.org/</p> <p>・草野友子「科研シンポジウム「若手研究者竹簡学国際会議」開催報告」、中国出土文献研究会・第74回研究会、於Zoom（オンライン）、2022年2月20日。 ・草野友子『科研シンポジウム「若手研究者竹簡学国際会議」論文集』、個人印刷、2022年3月1日発行、全68頁。</p> |
|--|

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

| | |
|--|----------------------------|
| <p>国際研究集会 科研シンポジウム「若手研究者竹簡学国際会議」</p> | <p>開催年 2021年～2021年</p> |
|--|----------------------------|

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| | |
|---------|---------|
| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|